

WINDOW

～料理を通じた国際交流～



親子で学ぶ国際理解講座
(イギリス、ベトナム、南米)



南米



異文化理解講座
in 四万十町
(南米編)



2018
Autumn
No.69

- 当協会の実施事業の紹介
 - 異文化理解講座 in 高知城歴史博物館 & ソーレ & 四万十町
 - Chatting session at KIA英語でおしゃべりセッション
 - 親子で学ぶ国際理解講座 in maruco & ソーレ
 - 日本語ボランティア研修
- フィリピンと南米から研修員が来ました!!
- 旅する鳴子(パラグアイ・ラパス日本語学校) / JICA野球指導者研修(高知ファイティングドッグス)
- 高知県国際交流課から報告(外務省飯倉公館での高知PR / ミクロネシア連邦大統領高知訪問)
- 内閣府「世界青年の船」事業体験談
- INFORMATION BOARD

高知県国際交流員が来ました!
KIA国際交流学生ボランティア情報
イベントカレンダー



KIA利用時間 /
月～土(祝祭日を除く) 8:30～17:15
(3連休の土曜日、8月の土曜日、年末年始は休み)

異文化理解講座

6/18 in 城博
6/30 in ソーレ
9/1 in 四万十町

城博

今年初めての異文化理解講座は、JICAと高知県の協力のもと、南米の日系社会をテーマとして高知城歴史博物館で開催しました。南米移民の歴史、ブラジルに渡った水野龍氏(高知県佐川町出身)、ファイティングドッグスの野球指導者研修会の報告やパラグアイ研修に参加した現職小学校教諭の授業での取り組みなどについて紹介しました。

高知県海外技術研修員として高知で10か月間の研修を受ける渡辺梅山口ベルト晃氏は、パラグアイ日系社会の「移住者の今」について紹介しました。1世の「開拓の歴史を忘れるな」、2世の「移住の苦勞を忘れるな」という言葉に続き、現在の日系3世は「日本文化を忘れるな」の世代で、経済的にゆとりもでき、農業以外でもいろいろな分野で活躍しており、今後日本との交流を続けていきたいとの話がありました。

参加者からは、今回のように日系のたどった道を日本や南米からの視点で話を聞くことで、より理解が深まったとの話がありました。



▲ 日系社会について話す渡辺氏(パラグアイ出身)

多くの方が聞きに来てくれました

ソーレ

高知工科大学大学院留学生のチャチャイ・ワナブーン氏(タイ出身)の講座では、宗教や食文化を紹介。昆虫食文化については、いろいろな種類の幼虫紹介から昆虫加工工場、昆虫フランス料理まで、タイの食文化の多様性を改めて知ることができました。また、高知県国際交流員の郭佳慧氏(中国出身)の講座では、中国の一大イベントである春節(日本でいう正月)と11月11日(独身の日)を紹介。「11」が並ぶ独身の日に、既婚者、未婚者が関係なく、自分のために買い物をする日であるとの説明がありました。



タイの食文化を説明



中国の結婚事情について話す受講者たち

四万十町

初の試み!いつもは座学での講座ですが、講師に高知県海外技術研修員(山田ヴァネッサみどり氏、渡辺梅山口ベルト氏)を招き、ブラジル・パラグアイ・アルゼンチン料理(エンパナーダ、タピオカクレープ、マテ・コシード茶)を作り、食事をしながら各国の紹介を聞きました。その後の交流会では、パラグアイの講師から、コミュニケーションツールであるマテ茶の飲み方をレクチャーされ、実際に「回し飲み」を体験し、楽しい会話とおいしいお茶を味わいました。



エンパナーダの皮作り



講師とともに交流会

ひきつづき、11月3(土) 四万十市(アメリカ、フィリピン)、1/23(水) 佐川町(南米の日系社会について)でも開催します。ふるってご参加下さい!!

日本語教育の新しいアプローチ

日本語テキスト『まるごと』をまるごと解説

共催:高知県立大学国際交流センター
講師 白井 桂 氏(独立行政法人国際交流基金 日本語国際センター専任教師)



平成30年3月18日、29人が参加し平成29年度日本語ボランティア研修を開催しました。

今年度は白井氏をお迎えし、県内で活動している日本語講師・日本語ボランティア講師の方を対象に、『まるごと』を活用した授業作りの方法を含めた日本語教授活動をブラッシュアップするための講義とグループワークを行いました。

「Can-do」を目標にした授業の方法

国際交流基金編著の『まるごと』とは、学習者が実際に日本語を使ってコミュニケーションすることを目標にしたテキストで、この課を終えたときに「どんな場面でどんなことができるようになるか」という「Can-do」を目標にして、現実の場面で使える日本語を学ぶものです。この開発の経緯をふまえ、効果的な使い方や、授業づくりについて白井先生と一緒に学ぶ機会となりました。



グループワークにて

日本語学習者の日本語レベル(6段階)があり、どのレベルの学習者を教えるときに、どんな場面において、どんなふうなことができるようになるかという考えるワークを行いました。中には、「お花見がどんなイベントなのかを説明する(春に桜の下でお弁当を食べたり飲み物を飲んだりする)それをもって、お花見と一緒に行く友達を誘う表現(〇〇せんか?)を教える」など、実生活に直結するユニークな意見も飛び交いました。このように授業づくりのヒントとなることを学びました。



今後の活動に生かすために

参加者からは「Can-doの教科書はまだ慣れていませんが、今後授業で活用してみたいと思った」や「『まるごと』が気づき・音・推測する力などからのアプローチということが分かった」など意見がありました。

県内でも在住外国人が増加しているなか、講師の方たちはどうやったら学習者が楽しく効果的に授業を受けられるかを工夫しながら研修を受けている様子でした。平成30年度も春頃にこのような研修会を開催予定ですのでぜひご参加ください。

親子で学ぶ国際理解講座

in maruco(8/13) & ソーレ(8/16,21)

今年の夏休み、親子で学ぶ国際理解講座を4回開催いたしました。対象者は、小学生とその保護者であわせて92名の参加者が、イギリス、ベトナム、南米(パラグアイ、アルゼンチン、ブラジル)の料理を作りました。普段と違う食材を使ったり食べたりすることから異文化を学び、各国の紹介やクイズで現地のことを知ることができました。

8月13日の“アフタヌーンティを体験しよう!”では、高知県国際交流員であるナオミ・ロングさん(イギリス出身)を講師に迎えて、スコー

ンや二種類のサンドイッチ(きゅうりと卵)作りを通してイギリスの食文化を体験しました。きゅうりサンドは、パンにバターを塗り、きゅうりを挟むだけのシンプルな作りです。四角いパンを三角に切った時のその切り口が綺麗であることが大切であるということを知り、子供たちは試行錯誤しながら、イギリスのきゅうりサンドを作っていました。

8月16日の“ベトナム料理を知ろう!”では、高知県在住のグエン・ラン・フォ



たくさん野菜をみじん切り



ベトナム料理

ンさん(ベトナム出身)を講師に迎えて、フォー(米麺スープ)、揚げ春巻き、チュウ(ベトナム風お汁粉)を作りました。名前だけではどんな食べ物かわからないけれども、作ることを通して普段使う食材にベトナムの食材や調味料を加えることでベトナム料理に変化していくことを楽しみました。

8月21日の“南米料理を作って食べよう!”では、高知県が招へいする海外技術研修員である山田ヴァネッサみどりさん(ブラジル出身)、渡辺梅山口ベルト晃さん(パラグアイ出身)、小椋フリオアルベルトさん(アルゼンチン出身)を講師に迎えて、タピオカクレープ、チパ、エンパナーダを作りました。みな、レシピを見ながら、

初めての南米料理であるにもかかわらず手際よく作業していました。エンパナーダは耳の部分の折りがかたにコツがあるので、講師の手本を注意深く見ていました。

今回は、夏休みということもあり自由研究に利用する親子もいました。海外の料理を食べるだけでなく作ることにによって、よりその国のことを知ることができたようです。また、パラグアイのクイズ「国旗に隠された謎は?」という質問に、親子で真剣に考え答えている姿が印象的でした。(答え:表と裏のデザインが違う)



お母さんと一緒に



南米料理



表

裏

Chatting Session at KIA 英語でおしゃべりセッション

—高知の外国人住民たちと楽しく話をしてみよう!—

英語を中心に、やさしい日本語や時にほかの言語を使い、カードのトピックに沿って話したり、お国の文化を紹介したり、フリートークをしたりして交流をする場です。2018年5月から開催し、幅広い年齢層の方が参加しています。



どの国の方でも参加OK、予約不要。お誘いあわせのうえ、お気軽に参加ください。場所は当協会(高知市本町4-1-37-2F)です。

2018年末までのスケジュール
木曜日(3:00pm-4:00pm)

- 9月27日
- 10月18日
- 11月8日、22日
- 12月6日、20日

海外から研修員が高知県にやってきました!

高知県国際交流協会(KIA)では、高知県からの委託を受け、研修員を受け入れています。今年も、フィリピン ベンゲット州から協力交流研修員1名、南米の高知県人会から海外技術研修員3名が高知県にやってきました。研修員は、高知県の各企業でそれぞれの専門分野に応じた研修を受けます。8月にはよさこい祭りに踊り子として参加し、多数の県民の皆さまと交流する機会を持ちました。協力交流研修員にとっては母州と姉妹友好交流を結ぶ高知県、海外技術研修員にとっては自分の祖先のルーツがある高知県の文化を知ることができ、とても良い経験になったようです。



(自己紹介①高知の印象、趣味など②研修員のひとこと)

アティンパオ レーンリン ゴリンギャブ

(6カ月間研修)

協力交流研修員、
フィリピン・ベンゲット出身
研修分野: 農業、造園



①早明浦ダム、北川村、桂浜、室戸・吉良川の町並みに興味があります。

②高知県は、他の日本の地域と同じように、人はとても親切であり、町もとてもきれいです。そんな高知で、日本文化についてもっと学びたいと思っています。さらに、私は、高知県農業技術センターや葉山庭園で、多くの技術や知識を学んで母国に帰り、それを還元したいと思っています。

山田 ヴァネッサ ミドリ

(10カ月間研修)

海外技術研修員、
ブラジル・サンパウロ出身
研修分野: マーケティング



①高知の好きなのは、鏡川、帯屋町、自然。趣味は、散歩やサイクリング。

②はじめまして。ブラジルのサンパウロから来ました。私は、サニーマートなどでマーケティングについて研修します。高知は、自然が豊かなところで、鏡川に沿って歩いたり自転車に乗るのが好きです。とても静かで、特に夕日を見ながらの散歩は最高です。また、高知には、おいしい食べ物がたくさんあります。カツオのたたきやアイスクリンは大好きです。これからどんなものに出会えるか楽しみ!

小椋 フリオ アルベルト

(10カ月間研修)

海外技術研修員、
アルゼンチン・ブエノスアイレス出身
研修分野: 調理



①高知県の好きなのは、街、海、魚料理。驚いたところは、住みやすいところ、人のやさしさ、魚の種類。趣味は、野球、旅行

②昨年12月に母国で調理専門学校を卒業し、今、RKC調理製菓専門学校で研修しています。日本料理、中国料理、西洋料理の勉強を頑張りたいと思っています。また、母国で経験できないことが今回の研修でできるのが楽しみです。観光のほかに、高知や県外で料理研究をやりたいです。

渡辺 梅山 ロベルト 晃

(10カ月間研修)

海外技術研修員、
パラグアイ・アスンシオン出身
研修分野: 畜産



①高知の好きなのは、治安が良く、高知の方々はとても親切で楽しいことと自然が守られており、景色がとてもきれいです。趣味はスポーツ(サッカー、バレエ、釣りなど)、ドライブ(新しいところへ行くのが好き)

②パラグアイ日系3世、職業は獣医です。高知県畜産試験場で大規模家畜に関するさまざまな技術を伝授してもらっており、帰国後の活動範囲が増えています。日本へ来て、多くのつながりを作り、観光やサッカーができたらいいなと思っています。研修期間はできるだけ多く、日本のことを知りたいです。パラグアイに興味のある方はいつでも遊びに来てください。歓迎します!!

高知県と姉妹友好交流を結ぶ協力交流研修員、高知県にルーツのある海外技術研修員との交流をしてみませんか!!!学校や民間国際交流団体等において、県民の皆様との文化交流の機会を探している方は、ぜひ高知県国際交流協会までご連絡ください。



▲高知北高校にて異文化出前講座



報告

旅する鳴子 ~高知よさこいのゆくえ~

社団法人ラパス日本人会 事務局スタッフ 吉沢 秋絵(日系2世)

高知県国際交流課では、よさこい普及のため使わなくなった鳴子を集め、海外へ寄贈しています。これまでに多くの方々のご協力により鳴子544組が集まり、パラグアイ、アルゼンチン、ブラジル、ハンガリー、アメリカ(ボストン)に寄贈されました。今回は、パラグアイのラパス日本語学校へ送られた鳴子の報告です。



2018年4月7日、南米パラグアイにあるラパス日本語学校統合30周年記念式典が行われました。1986年の日本人パラグアイ移住50周年記念式典を機に、「フラム移住地」から独立し、「ラパス市」が誕生！それを受けて、「ラパス日本人会」の広大な敷地内に3校あった日本語学校が1988年2月に統合し現在に至ります。この30年間に当校から巣立っていった卒業生は、502名を数えます。

さて、当日は来賓の方々や卒業生など多くの方が出席し、式典と祝賀会が盛大に行われました。式典では5年以上勤務した教師の表彰があり、祝賀会では日本人会傘下団体による歌や踊り、日本語学校生徒による踊り「俺ら東京さ行くだ」も披露されました。最後は、中学生による「よさこい」で幕を下ろしました。この踊りに際しては、今年3月に高知県から鳴子30組を寄贈していただき、富士葵さん(JICA日系社会青年ボランティア)のご指導も受けました。これからも、ラパス市の日本語学校で、日本文化や言語を風化させることなく、日系3世、4世にも受け継いでいきたいと思ひます。



中学生のよさこい踊り



いつも変わらぬたくさんの日本料理

報告

今、南米の日系が熱い!!

~JICA野球指導者研修より~

高知ファイティングドッグス球団株式会社 秘書広報室 久保田真帆

5月20日からの3週間、南米から日系人の野球指導者研修員を受け入れ、高知で“野球コーチング・チームマネジメント”研修を行いました。南米ではもちろんサッカーが人気スポーツですが、日系人の皆さんが根強く「野球」の指導を行っている地域も多くあります。キューバ式・アメリカ式の野球が主流の中、礼儀・チームプレー・フェアプレーを重んじ、基礎・基本に忠実な日本式野球を求める声も多くあり、そんな日本式の野球指導を学ぶため、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンの3か国から5名の研修員が来高しました。当球団の駒田徳広監督を始めとした元プロ野球選手指導者の指導法や、科学的知識の優れたトレーナーが考える練習

メニューなどのノウハウ、また、地元野球少年団や全国制覇も果たした高知中学校野球部の練習訪問、プロ野球の練習・試合見学、審判講習、チーム運営のためのスポーツマネジメント講座など、幅広い視点での研修を行いました。アルゼンチンから参加した今西セバスティアンマルコスさん(写真①左から4番目)はご祖父様が黒潮町出身ということもあり、そのルーツも探るように真剣に研修に取り組んでいただきました。日本で吸収した野球指導の手法で、帰国後、自チームの維持・野球文化の存続に繋げていただき、南米での更なる野球の発展・普及に今回の研修員、また日系人の皆さんが携わられることを期待したいと思います。



写真①:尾崎高知県知事を表敬訪問



研修会場@高知FDの試合会場



高知中学校野球部を訪問

外務省飯倉公館で高知県の魅力を発信

チーフ 吉良 葉子

平成30年2月19日(月)、外務省飯倉公館において、外務大臣と高知県知事が共催するセミナー及びレセプションが開催され、各国の駐日外交団をはじめとする約270名のゲストが参加しました。

第1部のセミナーでは、尾崎知事が「高知県の魅力」として県が海外に誇る産業や歴史について説明を行ったほか、「世界に発信するよさこい」と題して、高知県を発祥として今や日本中、世界中に広がっているよさこいの魅力をPRしました。

第2部のレセプションでは、高知県食材を使用した料理が提供されたほか、土佐酒、土佐あかうし、田舎ずしなどのブースを用意し、高知自慢の食をゲストにご堪能いただきました。また、県の観光や伝統工芸品、まんが、防災技術などを紹介するブースも設置し、高知県の様々な魅力を発信することができました。

さらに、会場には「オリジナル鳴子づくり」のブースが用意され人気を博したほか、ステージでは2チームによるよさこい鳴子踊りが披露され、その後はゲストが参加して会場が一体となって踊る場面もありました。

ゲストの皆さんには、高知県の様々な魅力や「おもてなし」を感じていただけたことではないかと思えます。



鏡開きの様子

ミクロネシア連邦大統領が高知県を訪問

平成30年1月19日(金)、ミクロネシア連邦ピーター・M・クリスチャン大統領や夫人らが高知県を訪問しました。

ミクロネシア連邦は、高知市出身の森小弁^{もりこへん}が明治時代に日本人として初めて同国に定住したことから、高知県にゆかりが深い国です。小弁の子孫は第7代大統領のエマニュエル・モリ氏をはじめとして同国の経済界・政界で活躍する方々を多く輩出しています。

クリスチャン大統領にとって初となる今回の来高では、日本とミクロネシア連邦の航路を持つ東京の海運会社が高知の造船会社に依頼した新たな多目的船の進水式に出席した後、高知県庁へ知事を訪問されました。

知事との懇談で大統領は、「ミクロネシア連邦と高知県は深い関係にあり、今後も人と人との交流を続けていきたい」と述べられました。知事からは、「太平洋島嶼国と日本の自治体レベルでの交流を広げていきたい」と述べ、大統領は支援したいと応じました。

大統領はこの後、高知市の三里小学校を訪問し、子どもたちからの温かい歓迎を受け、授業の視察等を行いました。

本年は日本とミクロネシア連邦の国交樹立30周年にあたります。来年の1月には、高知県から訪問団の派遣を予定するなど、同国との交流を今後も活発に続けていきたいと考えています。



参加者でよさこいを踊る

Ship for World Youths

～平成29年度「世界青年の船」に参加して～

内閣府が主催するこの「世界青年の船」事業は、世界11か国・約240名の青年が船上で約1か月をともに過ごし、リーダーシップ育成と国際交流を行うプログラムです。平成30年1月下旬に日本を出港し、客船「にっぽん丸」でシンガポール、インド、スリランカを訪問。陸上研修、船上研修、訪問国活動を修了し3月に帰国しました。

今日はKIAスタッフが、この事業に参加した高知県出身のお2人に自身の体験や学びを聞きました！

高知大学土佐さきがけプログラム
国際人材育成コース

ちかもり あいり
近森 藍璃 さん

世界の縮図を
40日間で体感したかの
ような出来事でした！

高知での日常生活で
生かされる学びが
あったことが収穫！

高知大学人文社会科学部
国際社会コース

うめした あきら
梅下 麗 さん

Q 船上での活動はどのような感じでしたか？

梅下：約1か月の船上活動だった。リーダーシップのある次世代の育成が目的なので、計画実行ができるようにマネジメントセミナー、異文化理解セミナーなどがあつた。異文化の衝突に対して、寛容な態度を身につけられた。身になった。

近森：マネジメントセミナーが印象に残っている。SDGs*の各ゴールでグループをつくり、ひとりひとりが役割を持って課題解決をテーマに討論の練習をした。段取り・話の振り方・討論時の役割の持ち方。コミュニケーション力。提案する力を学んだ。

Q 日本文化を紹介する機会がありましたか？

近森・梅下：ナショナルプレゼンテーションといって2回あつた。一回目は日本の基本的なデータを、パワーポイントを用いて紹介し、二回目では現代の日本(アイドル・オタク)と伝統的な日本(和太鼓・日本舞踊)などを紹介した。2回目の時はソーラン節を30人で披露した。よさこい鳴子踊りではなかったのにはいろいろ理由がありまして(笑)

ソーラン節を外国人青年も
交えて一緒に踊った瞬間



Q 各国の青年たちと過ごす中でトラブルはおきた？ その対処方法は？

近森：3人一組のキャビン(部屋)。ルームメイト同士が文化の違いからくるいざこざを起こし、板挟みになった。結局は自分が仲裁をし、事なきを得た。「言わずともわかる」という日本の文化は通用しないと感じた。

梅下：キャビン生活には特に問題がなかったが、逆に生活習慣の違いから3人が顔を合わせる時間帯がなく、コミュニケーションに苦労した。他のグループで、「シャワーは必ず毎日浴びる」という、日本人からすると当たり前のルールを設



「日本代表」として世界に出る！



スリランカ出身のルームメイトと！
夜中に食べたラーメンの美味しさ！

けていて驚いた！国が違えば文化も違うから、あらかじめキャビンの中でのルール決めは必要。

Q 異文化の中で過ごすのに大事なことは何だと思いますか？

近森：いつもニコニコと笑顔！あと、思ったことは発言すること。当初、YESマンになってしまい頼まれたことをすべて引き受け、苦労した。だから、できない時はできないと、自分の意見はしっかり伝えることの重要性を感じた。

梅下：意思表示をしっかりすること！英語があまりできなかったから聞くのが精いっぱいだったから大変だった。でも言葉足らずでもいいから、「私」を見せようと思い頑張った。そうするとプログラムの最後のほうには自分にも話を振ってくれる機会が増えた。

Q プログラムを通して、意識が変わったことは？ 今後の目標は？

近森：収穫は意思表示をすることが身についたこと。それから、自分を他人と比較しなくてもいいということ。自分は自分。今後はいろんな人に船の事業を広め、学んだことを還元していきたい！将来は、言葉で世界中の人と人をつなげられる通訳を目指している。

梅下：恥ずかしさがらずに相手の良いところをほめ、認めてあげる。相手の良いところを伝えると相手の気づきにもなる。今後も実践していきたい。日常生活で生かされる学びがいっぱいあつたから、今後はそれを地域に還元したい。将来は高知で教師になりたい。青年の船での経験を生かして地元高知で教師として実践していくのが自分の社会貢献だと思っている。



大好きなポーランドの兄と！

INFORMATION BOARD

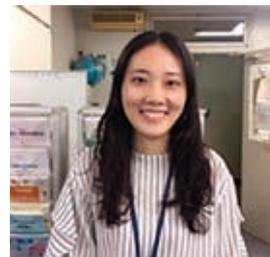
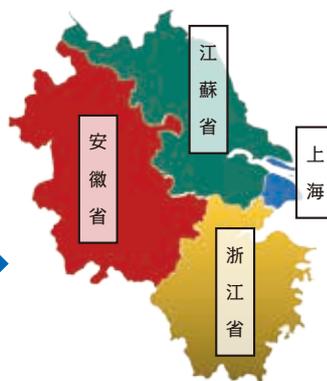
高知県と友好提携を結ぶ中国安徽省から

今年4月に郭佳慧さんが来ました!!

私は、高知県と安徽省との友好交流に自分の微力を捧げたい！中国との国際交流の架け橋として頑張りたい！と思っています。趣味は、山登り、ジョギング、バスケットボール等。ストレス解消にとてもいい方法だと思います。

また、普段は映画を見ることも好きです。自然に恵まれた高知での生活を楽しみにしております。初めてのことばかりで、色々と至らぬ点があるかもしれませんが、どうかご指導のほど、よろしく願いいたします。

長江、天下の名山「黄山」や豊富な地下資源など多くの自然に恵まれた安徽省は、農業と漁業がさかんです。



高知県国際交流員の
カクカケイ
郭佳慧さん

KIA国際交流学生ボランティア情報

今年度から10名のKIA国際交流学生ボランティアが始動を始めています！県内の大学・専門学生を対象に、①毎年KIAが受入れる海外技術研修員との交流・サポート、②KIAが主催するイベント等のアシスタントを10名程度募集しました。KIA国際交流学生ボランティアが、KIAのイベントに参加したり研修員との交流を持つことで、高知県の移民の歴史や現在の南米日系社会について知る良い機会です。日本や彼らの国について、お互いの意見を交換してみたいはかがでしょうか。

親子で学ぶ国際理解講座にボランティアとして参加し、普段知ることのないような南米の料理・文化を自分自身も学べた他、親子で共に学ぶという貴重な時間を提供してお手伝いできたことをとても嬉しく思っています。どの家庭のお子さんも「次は何をするの？」「私・僕がしたい！」と積極的に作りかたを学んでいました。見てみると、指を切らないかとヒヤヒヤする場面もありましたが、親御さんが一緒に切りながら教えるなど、親子のふれあいも多く見られました。今回のイベントのように、小学生の頃から異文化にふれ、理解を深めることは、とても良い経験になると思います。今後のイベントをボランティアである私もとても楽しみにしています。

H30 KIA国際交流学生ボランティア 藤本 万里奈(高知県立大4年)(写真右端)



KIA主催イベントカレンダー

H30年度下半期に当協会が予定しているイベント情報です。

詳細は当協会ホームページに随時掲載しますので、奮ってご参加ください。

10月 「国際ふれあい広場2018」 10/21(日) 場所:ひろめ市場よさこい広場、大橋通商店街北側

11月 「異文化理解講座 in 四万十市」 11/3(土) 場所:四万十市役所

1月 「異文化理解講座 in 佐川町」 1/23(水) 場所:佐川町立桜座

2月頃 「日本語ボランティア研修」、「通訳技能研修」、「人材育成セミナー」(開催日時未定)

